

アメリカ建築家協会主催のウェビナーにおいて講演を行いました（2021/3/17）

テーマ：震災後の復興戦略, 居住地移転

URL：<https://calendar.aiany.org/2021/03/16/fight-or-flight-pathways-from-around-the-world/>

当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が、アメリカ建築家協会（American Institute of Architects）ニューヨーク支部が主催するウェビナーにおいて、パネリストとして講演を行いました。

このウェビナーは、気候変動、海面上昇、森林火災などといった世界的な環境問題に対する居住地移転を主なテーマとし、21 世紀の都市のあり方について再考するために、4 回シリーズで開催されています。

村尾教授は第 3 回目のセッション「Fight or Flight? Pathways from Around the World」において、4 人のスピーカーの 1 人として「Urban Recovery from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami」と題し、東日本大震災から 10 周年を迎えた今、震災後に被災地で行われた復興戦略と今後の課題について話しました。主な講演内容は、以下の通りです。

1. 被害抑止戦略の重要性：被災前に行われる政策の中での被害抑止（Mitigation）の重要性
2. 震災からの復興：全体的な戦略と移転を実施した陸前高田市の事例を紹介
3. 復興後の現在の課題：空き家、住民のコミュニケーション、山村地区における高齢化、新しく開発された土地の今後の利用法について

また同セッションでは、海面上昇が深刻な問題となっている、ミクロネシア連邦マーシャル諸島における移住、マイアミなどのサウスフロリダにおける都市移転、ニューヨークにおける都市計画についての講演も行われ、居住地移転についての議論が繰り広げられました。



ウェビナーの様子



講演スライドより抜粋